

# 平成 30 年度小規模多機能型居宅介護おきなぎの家 サービス評価

◆小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

小規模多機能型居宅介護おきなぎの家「サービス評価」 総括表

法人名	与謝郡福祉会	代表者	理事長 古板利一	法人・事業所の 特徴	(法人理念) 「いのちを支え いのちに支えられ いのちを育む」 (事業所の特徴) 「もうひとつの自分の家」という考え方を根幹に、住み慣れた家・地域で安心して生活が出来るように、1つの事業所で「通い」「訪問」「宿泊」と3つのサービスを柔軟に組み合わせ、更に顔なじみの職員が対応することで、いっそう安心できる生活を送っていただけるように取り組んでいます。
事業所名	おきなぎの家	管理者	嶋崎福寿		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	1人	人	1人	人	人	4人	人	9人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	課題をしっかりと認識した上で、もう一步達成できなかった項目を全職員で協力しながら計画的に達成する。そのためにスタッフ個別評価について3か月に1回職員で評価会議を持ち、達成度を確認しながら、フォローする体制を定着させる。	3ヶ月に1回評価会議をもって、改善計画の達成を確認していくこととしていたが、職員への周知が不足していたため、できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わからない」「ほとんど出ていない」という意見が複数あったが、異動してきたばかりの職員にも参加して頂いた為、上記のような回答があった</li> <li>・改善計画に対して、スタッフ全員で具体的な取組みが行われているかどうかの評価が難しい。</li> </ul>	職員会議や業務改善会議をとおして、あらためて外部評価の仕組みを全員に周知し、認識を深くすることで意欲的に取り組める環境をつくる。その上で改善計画を定期的に確認し、達成までの進捗状況を全員で共有することで、確実に一つずつ達成していけるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	おきなぎの家をもっと広く認識していただけるために看板の設置等を検討する。また安心して気兼ねなく来ていただけるよう運営推進委員にも協力をいただきながら、環境の見直しを行っていく。	おきなぎの家をもっと認識していただくためのひとつの取り組みとして、手書きのかわら版の発行やリーフレットを作成し活用できた。手作り感があり好評をいただいた。事業所内外ともに整理整頓と衛生管理を常に心がけた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日、来させてもらった時に入っているのかどうか迷ってしまい少し外で待っていた。入りづらさを感じた。</li> <li>・昨年と同じ考えでいいのなら「はい」とするが、昨年と今年では求められるものが違ってきているため「はい」とは言えないのではないのか。</li> <li>・看板については、担当課とも話しているが進んでいない。</li> <li>・玄関外に「ご自由にお入りください」があればいいのでは。</li> <li>・日中は開錠しているというが、玄関を開けているばかりでいいのか。昨今は不審者に対する事</li> </ul>	地域に開かれた事業所を目標に、玄関の外から入りやすい工夫をしていく。あわせて「おきなぎの家」の看板も引き続き役場と相談し、適所に設置していきたい。並行して防犯マニュアルに沿った訓練を実施する等、防犯対策にも力を入れ、より安心・安全な事業所を目指す。

			<p>件が起きている。不審者侵入があった場合の対応はどのようにするのか対応方法等を検討する必要がある。さすまた等の設置も考える必要があるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の中学校では、玄関に行くまでに守衛室を設けているところもある。</li> </ul>	
C. 事業所と地域のかかわり	<p>各地区のイベント等を事前に把握して、計画的に地域の民生委員をはじめ、関係する地域の方と関わりを持たせていただく。結果、地域の方と一緒に取り組めるイベントを1つでも増やせるようにする。</p>	<p>各地区で行われる行事の情報を出来るかぎり事前に収集したことで、参加するまでの期間にゆとりもあり、安定して参加できた。更に学童や保育所との関りは持てた。しかし地域住民の方に参加していただけるようなイベントは、1回しかできなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域によって差があると思う。名前は知られているが、どのようなことをしているか、あまり知られていないと思われる(新井地区では名前は知られているが、内容までは理解できていないような状態)。</li> <li>・直接相談することができるかわからない。誰かが間に入って相談するなどしないと出来ないかもしれない。おきなぎの家に相談して良いのかどうか地域の方は判断できないかもしれない。</li> </ul>	<p>地域の関係者と積極的に話し、行事等に参加する。あわせて「おきなぎの家」主催のイベントの開催や、長寿苑まつり等への出店・参加を検討して実施していく。</p>
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<p>各地区の民生委員との関係づくりを密にしていく。結果、必要時には一緒に自宅訪問するなど協力体制を作り、利用者の支援のネットワークが更に強固なものになるようにする。</p>	<p>地区の民生委員との密な連携は、運営推進会議が意見交換の場となっているが、相談者宅に出向くことに繋がったケースには至っていない。</p>	<p>各地区の民生委員との関係づくりについて結果を聞くと、民生委員との密な連携までは出来ていないとのことだったので「いいえ」とする。</p> <p>民生委員は定期的に集会をしている。地区ごとでも集会をしているので顔を出してみようか。</p>	<p>民生委員との連携を密にして、支援が必要な方を早々に把握できるような体制を整え、少しでも長く地域で暮らすことができる為の支援に繋げることができる。</p>

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>運営推進委員と共同して地区に出向いておきなぎの家の啓発に繋がるよう地域でのイベントなどへ参加していく。</p>	<p>おきなぎの家の啓発に繋がるように、地域でのイベント等には積極的に参加させていただき、リーフレットも配布できた。しかし運営推進委員と共同して地区に出向くことはできなかった。</p>	<p>「事例検討」というのが、どういったものを指すのか判断できかねる。毎回の利用者状況などの説明を受けているので、それで「はい」とするのか、それとも対応方法などを検討するところまでとするのか。</p>	<p>運営推進会議において、地域で気になる方等を聞き、必要であれば事例検討を行って、行政とも情報共有するなどの連携体制を作る。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>火災・津波のほかにも、様々な自然災害を想定した訓練を計画・実施する。その際には地区の方にも声をお掛けして、訓練をする際は参加や見学をしていただく。また、防犯マニュアルや指針を作成していく。</p>	<p>火災、津波、大雨等のほか様々な自然災害を想定した訓練は、火災想定と防災無線による津波訓練への参加しか行えていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災計画やマニュアルについて、玄関に置いてあるのは知っているが中身までは確認できていない。</li> <li>・災害時に頼りになる事業所として。普段の居心地は良い、災害時には停電も想定しておく。従って対応ができるようにカセットコンロやプロパンガスなどの備品を準備していったほしい。</li> </ul>	<p>火災想定訓練・津波想定訓練を計画して行う。訓練をする際に、地域の方等にも声をお掛けして参加や見学をしていただく。</p>

